ゾンこれ～Goldenzombie collection～

俺の嫁は身長147cmの純朴田舎〇学生

東北のとある田舎町
男女湖村（おめこむら）

それが俺の生まれ育った場所だ

そして俺の名前は
斎場（さいば）　番太郎（ばんたろう）
40歳

良く言われる
似ている芸能人といえば
ドラ〇クドラゴ〇の
塚〇といわれる
地元の学校の教員である

こんな容姿だから
当然彼女イナイ歴は
40年――
生徒にも同僚にも
全く人気はなかった

しかしこの春
そんな冴えない
素人童貞の中年が
結婚する事になった
その相手とは――

かいとう
海藤　アイナ
愛奈

〇学２年生の女の子で
俺の勤務先の生徒である

身長は１４７ｃｍと
小柄な身体で
趣味は読書と編み物
控え目でおとなしい性格の娘だ

何故俺の様な
中年ブサメンがこの様な
女子〇学生をゲット
できたかというと

この村で育った
１０代の女子は
４０歳以上の未婚の男性に
嫁がなければならない
この村に伝わる古い
風習のおかげなのであった

そして結婚から3カ月

俺達夫婦はウチの父親所有のこのアパートで一緒に暮らしていた

トン
トン

あ…あの…朝ごはんできました

だ…ダンナ様のお口に合えばいいんですけど…

ズズ…

うん

うまいよ

彼女はまだ〇学生なのに
炊事　洗濯等の
家事全般を一生懸命に
やってくれていた

パァァァァッ

ほ…
本当ですか？

あ…ありがとう
ございますっ…

そして俺みたいな
ブサ中年にも
普通に接してくれる
本当にイイ娘である

じゃあ…あの
今日日直の当番が
あるので

先に学校
行ってますね

しかしそんな彼女に
対して
1つだけ不満があった
それは――――

貞操がもの凄く
固い事――
結婚する条件の
1つとして
成人するまで
Hな事はしないで
欲しいとの事だった

結婚して3カ月
経った今でも
俺達夫婦は
キスはおろか満足に
手すら繋いでいなかった

そんなおぼこを
無理やり犯す勇気も
無かった俺は

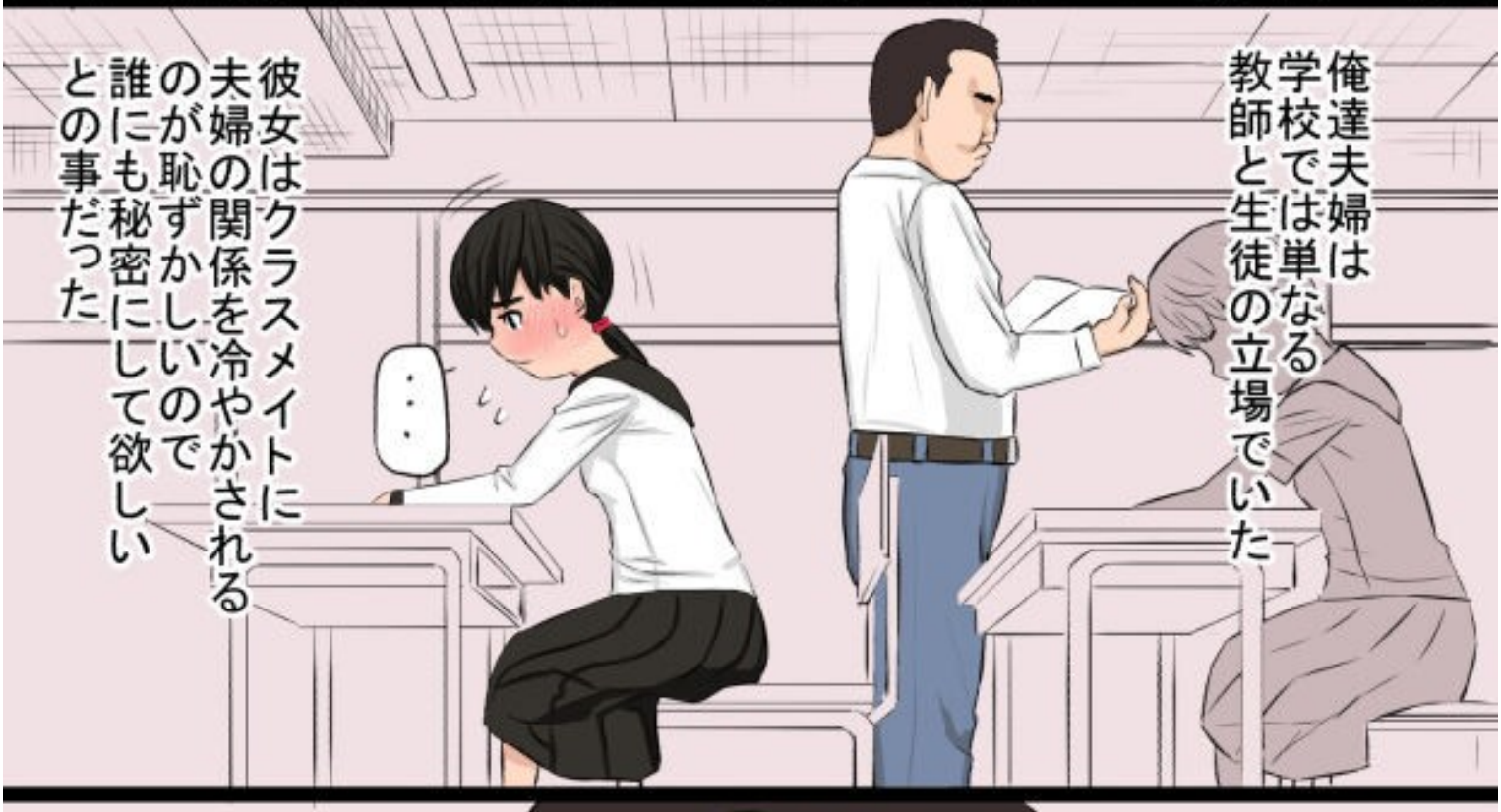
ただひたすら
ドス黒い欲望を
溜め込む日々なので
あった

ギン
ギン
ゴゴゴゴ…

そして
そんなある日――

週に3回ほどある
アイナのいるクラスでの
授業の時間での事

俺達夫婦は
学校では単なる
教師と生徒の立場でいた



彼女はクラスメイトに
夫婦の関係を冷やかされる
のが恥ずかしいので
誰にも秘密にして欲しい
との事だった

俺はその事に関しては
不満はなかったが

1つだけ気がかりな
事があった――

この生徒の存在

な～海藤

ちょっとこの問題教えて

え？

だいば 台場 まもる 守

野球部所属の俺の嫌いな爽やかスポーツ少年だ

そいつがどうやらアイナに惚れてるらしくここ最近ちょっかいを出しているのだ

スゲー分かりやすかったわサンキューな

フフ…

どーいたしまして

そして何より心配なのはアイナのまんざらでもない態度――

そんな2人を見る度に
俺は嫉妬と焦燥感で
胸が一杯になり

おいおい
お前等
デキてんのかよw

見せつけて
くれるねえ♡

とても正常な気持ちで
授業をこなす事が
困難になった

ヒュー♡ ヒュー♡

お前等もう
結婚しろよwww

そして俺はその時
決意した

今夜
アイナの全てを
奪う事を――

そして
その日の深夜――

アイナは家事と勉強で
疲れ果て
可愛い寝顔で
深い眠りについていた

スー…
スー…

俺が夜這いしに
彼女の部屋に入った事も
気付かないほどに――

ニタァ…

まず俺が最初にしたのは

…？

ッ!?

ダ…ダンナ様！？

彼女を羽交い絞めにして動けなくする事

ガチ

イッ

そしてその次に――

ヴィィィン

電マを彼女の秘部に当てる

ひっ……！？

ゼク…

ヴィィィィン

オナニーもした事がなかった彼女にとってこの責めは

ゼクゼクン

ひぐっ…あ……

刺激が強く必死に逃れようとするが

ギチッ…

やっ……やめっ……

身長147cmの彼女にとって大の大人を振りほどくのは容易ではなかった

そして俺は
電マ責めプラス
隣町の風俗で
鍛えたフィンガーデク
も投入した

クリクリ
ヴィィィン

この両方の刺激に
処女だったアイナもたまらず

ゼク
ッ…♥

何っ……！？
来るっ……！？
何か来ちゃうっ
……！？

絶頂した

ゾクゾク
ゼクゼク
ゼク
ヴィィィィ
くぅっ

初めての絶頂で
腰が抜けたのか
アイナは大きく
痙攣した後
前のめりに倒れた

ビクン
ビクン
ビクン
ジワ
あ…あ♥

俺は間髪入れず
彼女の下着と
寝巻をはぎ取り

ニュル…

極太の肉棒を
彼女の小さな
女性器にあてがうと

一気にそのまま
貫通した

ズニュウ…

ビクン

そして俺はアイナが逃げれない様に上から覆いかぶさり激しく腰を振った

パン

パン

いやあ…ああ…

彼女のアソコは未だ小さかったが

パン

先刻イカせてほぐしたせいかピストンは非常にスムーズであった

パン

パン

ダ…ダンナ様っ…お願いっ…やめてえっ…

アイナは泣きながら止めるように哀願したが

俺はこんなに身体の小さい○学生を犯している現状に興奮しまくり

パン

パン

パン

一層激しくピストンしまくった

やああああ…

やがて――

パン

パン

パン

ッ…

ッ……

膣内に思い切り射精した

ザクン♥

ぶるっ…

ゼロ…♥

ゼクン…♥

ヒュルル。

こうしてアイナは
本当の意味で
俺の女房になった

あ…♡
あ…♡
ビク…
ビク…
ビク…
ビク…

彼女の小さな
女性器から
精液が
ゴポリと
溢れだす

ゴポ…
ビク…
ビク…
ビク…

それを見ると
俺は自分の
征服が満たされる
のを感じるのだった

その後の
夫婦の関係修復は
大変だった

とにかく
謝り倒し
彼女の要望は
全て聞き入れ

1か月以上
粘りに粘った末
何とか許して
もらったのだ

それから
3ヶ月後――

俺達夫婦は風呂場で
ディープキスをしていた

あの日から拝み倒して
絶対に乱暴にしない
という条件で
俺はSEXする事を
アイナに許されたのだ

キス1つで
このトロ顔である

その後挿入前に
軽くフェラをさせる

まだ彼女には技術が
ないので俺自ら
腰を振る

ズポッ

ブポッ

ブピッ

アイナは口でするのは
苦手らしく毎回
苦しそうな表情で涙目になっていた

その表情を見ると
無理やり口の中を犯している
感覚を覚えもの凄く興奮するのだ

ズポ

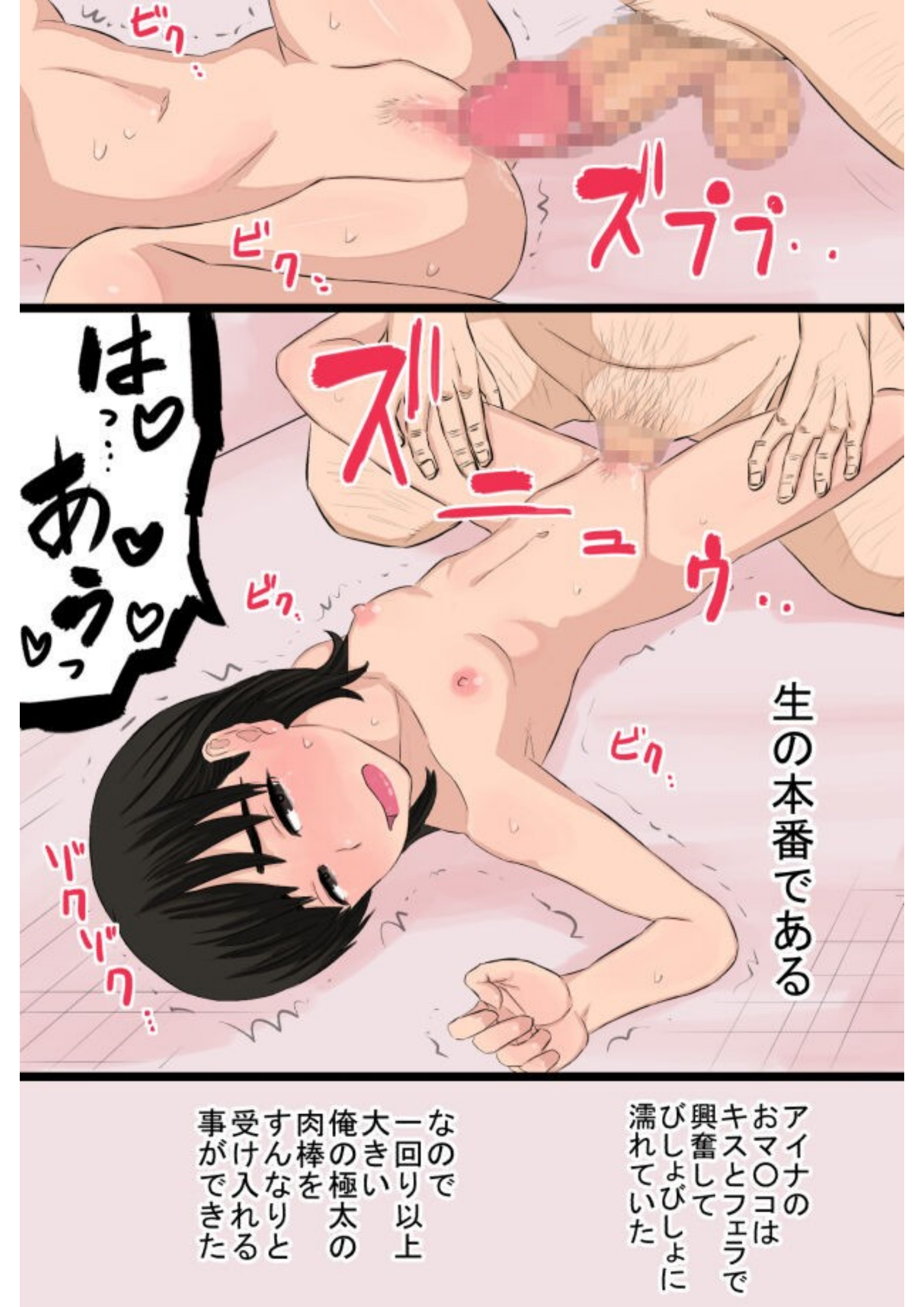
ジュプ

ブプ

そして
肉棒が十分に
固くなった所で

ギン

ギン


ビク…
ビク…
ズブブ…
ズニュウ…
はっ…あ♡う♡っ
ビク…
ビク…
ゾクゾク…
生の本番である
アイナのおマ〇コはキスとフェラで興奮してびしょびしょに濡れていた
なので一回り以上大きい俺の極太の肉棒をすんなりと受け入れる事ができた

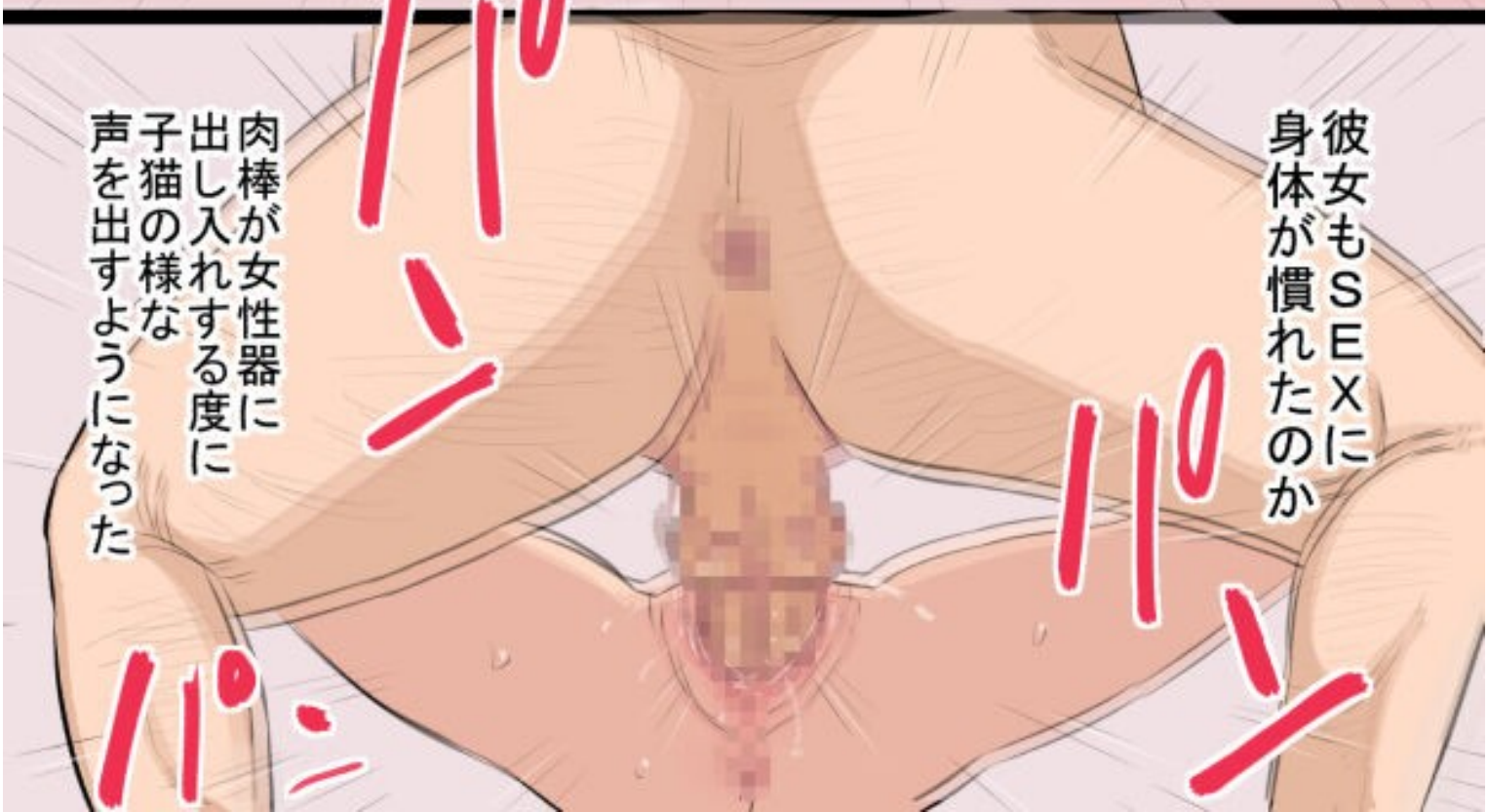
アイナの小さな身体を
潰さない様に
気をつけながら
上から覆いかぶさって
腰を振る

パン
パン
パン

ハ～…♥

ビクビク…♥

ハ～…♥



やがて2人の快感は頂点に達し

ゾクッ…

フ～…♥

ダっ…♡

ダンナさまあっ…♡

フ…♥

同時にイった

ドクン♥

ギュ…♥

ゾクゾク…

ギュ…♥

好きぃっ…♥

そして
アイナの膣から
肉棒を引き抜くと
俺の精子が溢れ出た

ビク…♥

フ～…♥

フ～～♥

ビク…♥

ゴポォ…♥

ダンナ様…
今日も
凄かった
です…♡♡

そう言って
アイナは
満足そうに
ほほ笑んだ

ッ…♥

そんなある日
仕事を終え
家に帰ると

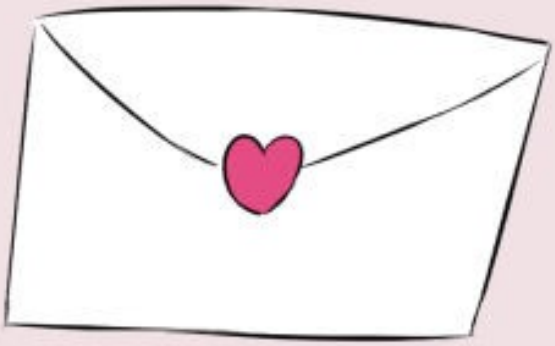
ただいまー

少し困った表情で
アイナが出迎えてくれた

あの…ダンナ様
ちょっと相談
したい事が……

その相談したい事とは
ラブレターを
渡されたらしいのだ

相手は例の同級生
台場　守



この手紙の返事を
明日の放課後
校舎裏で聞かせて
欲しいとの事だった

できるだけ
傷つけないように
断りたいんです

……

この時俺は
悪魔の様な
名案が
頭に浮かんだ

ニタァ…

とりあえず
その思いついた
方法を
アイナに
教えてやる

ゴニョゴニョ..

・・・

すると

ムリムリムリ！
絶対無理です！

そんな恥ずかしい事
絶対できません！！

こんな感じで
涙目になって
猛烈に反対される

えぇぇぇっ!!?

しかし
家長である
俺の命令は
絶対だ

嫌がる彼女を
強引に
説きふせ

その晩は
明日の計画の
打ち合わせを
念入りにした

そして
翌日の放課後

あ…海藤

あの手紙読んでくれて…

…

約束の場所にアイナは現れた

しかし後からすかさず俺が登場する

は…？斎場…先生…？

ザ…

いや～…台場クン

悪いねえ君に言わなきゃいけない事があるんだよ…

!?

そして台場クンの目の前でアイナはパンツを脱ぎスカートをたくしあげた

スッ…

…

へ…？
お…おい！？
海藤…
おま…何を？！

カチャ
カチャ…

ボロン

パニくる彼を
尻めに俺達は

目の前で
合体した

ズニュウ…♥

ぜゥ…

っ…はぅ♥

悪いね♡
俺達夫婦
なんだよね♡

!?

あまりの出来事に
彼はショックを受け
力なくへたりこんだ

ガク…

か…海藤……！？
何でこんな
ブサイクな
おっさんと……！？

パン
パン
パン
パン

ゾクゾク…

ん…♡

ゾクゾク…

うぅ…♡

この時
アイナは
喘ぎ声を
我慢することに
精いっぱいで

ゾク…♡

くぅ…♡

ゾク…♡

ふぅ…♡

彼の問いは
耳に入って
いなかった

台場クンが
少し可哀想に
なってきたので
オカズになる様に

キャン…

ヴィ

俺達夫婦の繋がりが
見え易い体位に変える

やっ……♡
ダメっ……
旦那サマっ♡
……！？

パン

パン

パン

アイナのマ〇コは
同級生に見られてる
せいか非常に
締まりがきつくなった

この時の台場クンは
アソコをおっ起て

ッ・・・

涙を流しながら

俺達の行為に
釘づけに
なっていた

やっ・・・♥
やあぁ・・・♥

ゼクニ・・♥

パン
パン
パン

そんな中
俺達夫婦は
とうとう――

ハッ・・・♥

ゾクッ

ハ～・・♥

ダめメっ・・・♡
台場クンが
見てるのにっ・・・♡
頭が真っ白に・・・♡

2人そろって絶頂した

ビクッ…

見ないでぇっ

ビクン…

ビュプッ…

アイナは中出しが終わると
恍惚の表情で
自分の膣から溢れ出る
精子を眺めていた

ハ～…♡
ハ～…♡

その様子を見て
台場クンは
あまりの
ショックで
その場を
逃げ出した
その後彼は
人間不信に
陥り
ひきこもりに
なったという

う…
うわあっ…
ダッ

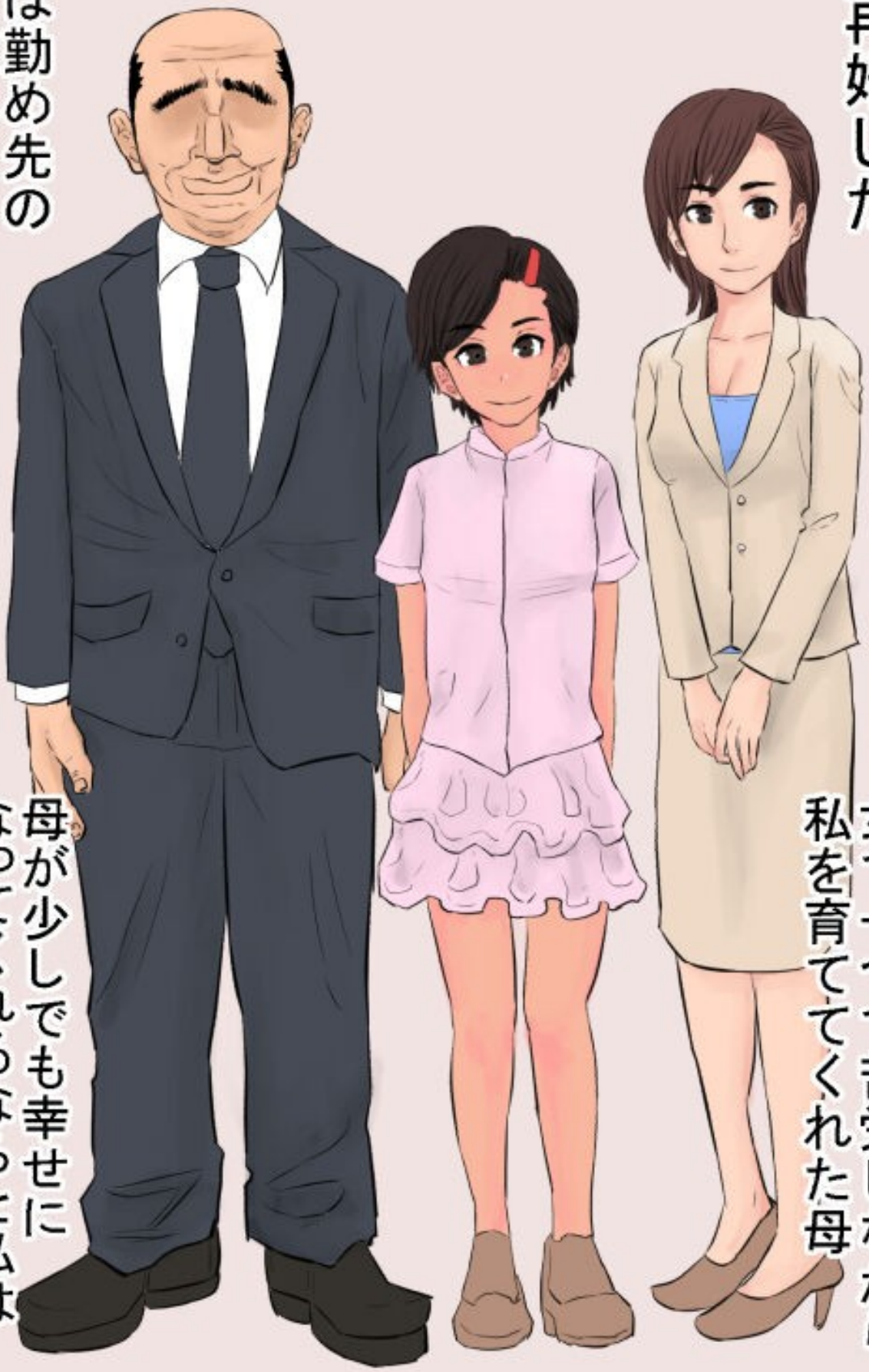
そしてその時の
俺達は彼が
逃げ出したのを
気付かないほど
ラブラブに
キスをしていた
こうして
濃厚な夫婦生活は
続いていくのであった

ニュル…
チュブ…
ん…♡
ん…♡

薄幸〇学生ミクちゃんが母と再婚したドスケベ親父に開発されて親娘丼されちゃう話

この春
母が再婚した

相手は勤め先の
二十も離れた
会社の社長だ



5年前に離婚してから
女で一つで苦労しながら
私を育ててくれた母

母が少しでも幸せに
なってくれるならと私は
この再婚に賛成した

本音を言うと
私は最初から義父が
苦手だった

イヤらしそうにニヤついた口元
完全にハゲあがった頭
そして何よりイヤなのが
私を舐め回す様に見る
下品な眼つきだ

しかしこの人は結構大きな会社の社長で
お金を持っていた

これまで質素だった
我が家の食卓が
豪華になり

今まで苦しかった
家の家計もウソの様に
解消した

そしてつい先日
私達親子は5年程住んでいた
安アパートから

この都内の一等地にある
社長宅に移り住んだ

そして転校先の学校でも
早々に友達ができ

今までの貧乏でみすぼらしかった
私の人生が人並み以上の
順風満帆なものに思えた

しかしそんな生活にも
一つ不満があった
それは――――

ハッ♥
イクッ♥イっちゃう♥
パン
パン
パン
パン

母と義父の夜の営みの声が
私の部屋まで筒抜けになってしまう事だった
ドキドキ
…！
もじ
もじ
もじ
今まで聞いた事がないHな声で
私は変な気分になりながらその夜を過ごした

そんなある日
学校から帰る途中に
突然豪雨が襲う

運悪く傘を持っていなかった
私はズブ濡れになりながら
走って家路を急いだ

ザアアアアッ

そして私は家に着くとスグ様
風呂場へ行き
熱めのシャワーを浴びた

シャアアアアアア

しばらくして
玄関から
誰かが帰ってきた
音がしたが

私は母かと
思いそのまま
シャワーを
浴びていた

すると父が裸のまま
突然風呂場に入ってきた

ザッ

ザァァァァ

いきなりの事に
私はパニックになり

きゃあぁ

悲鳴をあげ
その場に座り込んだ

バッ

しかし義父はすかさず
私の背中に貼りつき

ミクちゃ～ん
僕たち親子
でしょ？

ビク…

身体洗ってあげるから
そんなに恥ずかし
がらなくていいよ♡

ひっ…

それともミクちゃんは
ボクと親子になるの
イヤなのかな？

それなら
お母さんと
離婚して
また貧乏生活に
戻るけど
それでいいの？

ビク…

ビク…

っ…

このオジさんに
触れられるのが
心底イヤだったけど

～…

母の事そして
これから生活
の事を考えると
私はそこから
動けなかった

それじゃまず
オッパイから
洗おうかな♡

ゼクン…

ひゃっ…

そう言うと義父は
手にボディーソープをつけ
私の胸を鷲掴みにした

クリッ…

そして手慣れた
手つきで
私の乳首を
弄ぶ

クリ…

お♡
乳首
起ってきた

ミクちゃ～ん
ちょっと感じてる
でしょ？♡

…♥

ゾクゾク

ビク…

っ…♥

ビク…

好きでもない相手に
こんな事をされて
本当にイヤなのに
身体が反応してしまう
事が私は悲しかった

それじゃ今度は
おしりを洗おっか♡

ググ…

ドキドキ

〜…

死ぬ程恥ずかしかったが
義父の言いつけには逆らえず
浴槽に手をつけ
お尻を義父の方へ向けた

おっほ〜♡
キレイな〇学生
マ〇コだねえ♡
それにチョロっと
毛が生えてる♡

ムチィ…♥

ゼクン…

そう言って
義父は
私のアソコを
拡げる

きゃう…

ゾクゾク…

誰にも触らせた事
がない大事な所を
強引にイジられ
私の頭に電気の
様なショックが走った

ボク上手いから
スグ気持ち良く
なるからね♡

義父はそう言って
手慣れた手つきで
私のアソコを弄ぶ

自慰をしたことも
なかった
私にとってその刺激は
あまりに強すぎたが

義父に逆らえない私は
声を押し殺して
ただ耐えるしか
なかった

お♡〇学生
マ〇コから本気汁
出てきたぞ♡

義父の手は休むことなく
アソコを責め続け

やがて私は
自分の身体が
浮かびあがる
感覚を覚えが
覚えが

やっ…♡
頭が白く…？

ゼクン♥
おっ♥あっ♥あ♥
ブピ
ビクン♥
私は生まれて初めて絶頂した

それじゃ本日のメインイベントいきましょうね～♡

やっ…やめてっ…それだけは…

イヤっ…イヤっ…イヤっ…

義父は私の必死の哀願を無視し――

クニ…

クニ…

一気に男性器を私の膣内へ突き入れた

ズブリ

ぎゅっ…

ぎゅっ

なっ…何コレえっ…

ぎゅっ

SEXが初めてだった私に対しても容赦なく腰を振ってくる義父

おほ～♡こりゃあキツイ♡

パン

パン

パン

いたっ…

こんなのっ…こんな酷いのが私のっつ…初めて…？

痛あ…い…

義父のソレは非常に大きく出し入れする度に

ズコッ

ズコッ

私の膣内はエグられる様な感覚を覚えた

○学生マ○コ最高～～♡

パン

パン

そう言うと義父は更にピストンを速めた

ピストン速度は
更に加速し
そして――

パン
パン
パン

イクよ
ミクちゃん
膣内にだすよ！

ふぐぅ…

ぃ～…

んぅ…

ぃ～

膣内!?
え!?

フ～…

私はその意味
も分からず
ただ耐える
しかなかった

フ～…

やがて義父の男性器は
大きく脈打ち――

ビク…

ビク…

ビク…

義父の精子が大量に
私の膣内に注がれた

いや～♡
出た出た♡
あ・あ・
ビク…
ビク…
ゴポ…
男性器を引きぬくと
私のアソコから
ゴポリと精子が
溢れ出た

じゃあお父さん
先に出るね
長湯して
風邪引くんじゃ
ないぞ♡
そう言って
義父は
放心状態の
私を置いて
サッサと
風呂場を出たのであった
ビク…
ビク…
ビク…

それが私の
初体験であり
悪夢の日々の
始まりであった

それから3カ月――
母が自宅にいない時間を
見計らい
度々義父の性欲の
処理をやらされた

ん～…

ニュポッ…

ニュポッ…

ぶ…

性に対して何も知らなかった
年相応の◎学生だった私は

ジュブ…

ニュブ…

この3カ月で色々と
Hな事を仕込まれたのだった

ニュッ…♥

ニュッ…♥

教わった通り
しゃぶっていると
はちきれんばかりに
男性器はそそり立った

ビクッ

……

ふ～♡気持ち良かった♡
じゃ　いつものお願いね♡

そして私は義父の命令通り
自らパンツを脱ぎ

……

スルリ

くぅぅ

ビクッ

ビクッ

極太な肉棒を
受け入れるために
腰を落とした

ニュププ…♥

そして私は義父を悦ばせるために
一生懸命に腰を振る

ふぅ…♥

ゾクゾク…

うぐぅ…♥

パン♥

パン♥

パン♥

もうこの頃には
挿入をしても痛みは
感じなくなっていた

むしろ義父の
極太な肉棒で

ヒチュ…♥

私の膣内をかき回されるのが
とても気持ち良くなっていたのだった

ボチュ…♥

何故か私は
その事が無性に
哀しくて

ゾクゾク…

ハ…♥

ハ…♥

涙が溢れて
止まらなかった

よーし
頑張ってるミクちゃんに
御褒美あげちゃうぞ♡

きゃっ！

そう言うと義父は
私を抱え上げ

ガバッ

ピストン速度を
倍以上に上げた

ズボ♡
ズボ♡

この刺激に
私は耐えられず

ゾクゾク

んぅ…

バニ♡
バニ♡
バニ♡

ヤバイっ…♡
ヤバイっ…♡
ヤバイっ…♡

私は絶頂した
ビクンッ♥
ビュルルル…♥
ギクン

お疲れさまー♡
ここにお金置いとくね

ハー…

ビクッ…

ハー…

ビクッ…

行為が終わると
決まって義父は

……

三万円をくれた

パサッ…

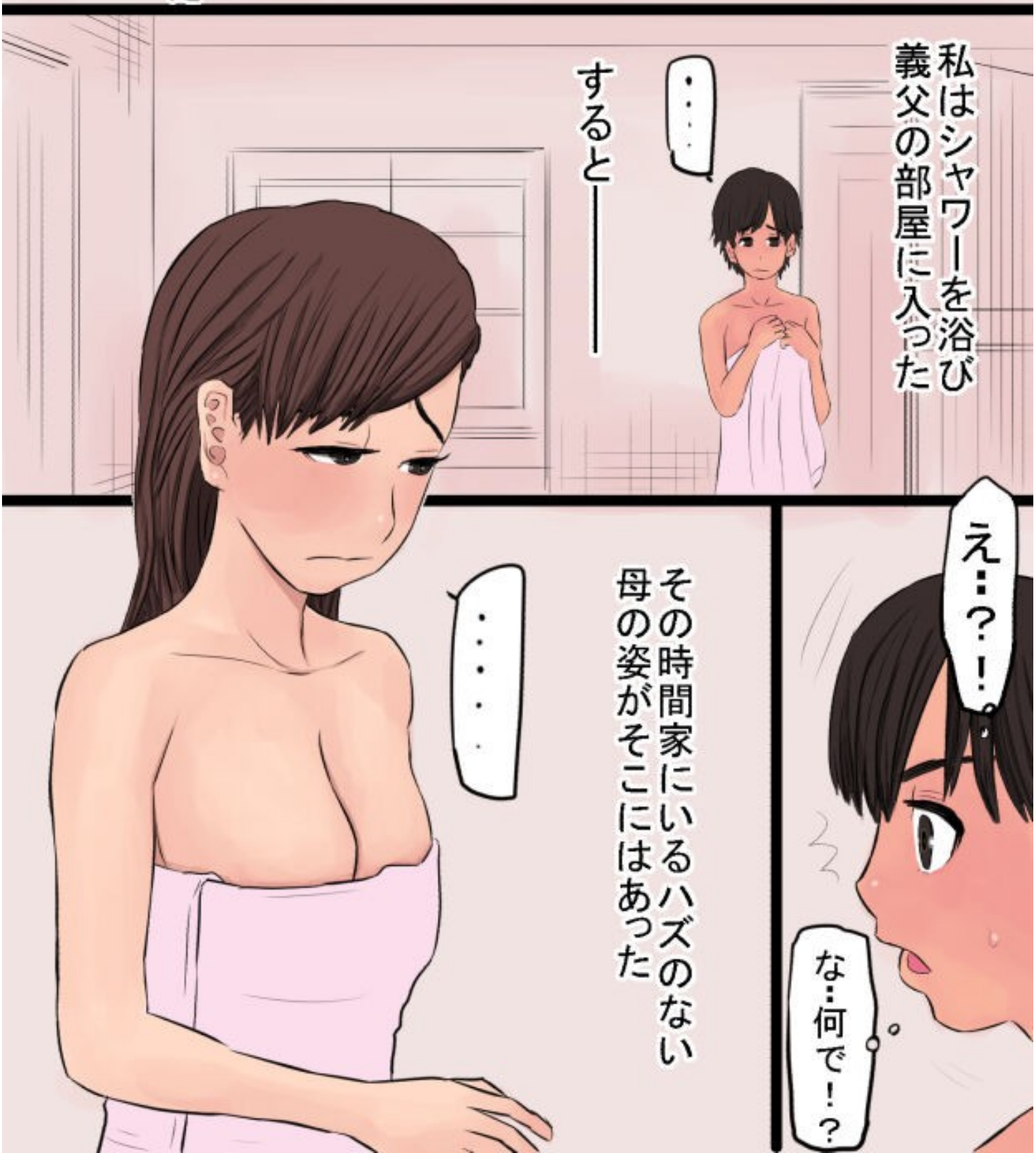
貧乏な時はあれ程
欲しかったハズなのに

私はそのお金を見ると
罪悪感と悔しさで
涙が止まらなかった

〜…

そんなある日

もはや日課となった
義父とのSEXの
ために



私が現状を飲み込めず
パニックになっていると

ハッハッハ
たまには
親子3人で
スキンシップ
とろうよ♡

ギク…

母さん
ミクちゃんの事
頼むよ♡

後ろから突然
義父が現れそう言った

ミク…
本当にごめん

私はこの
言葉で
全て悟った

母は最初から
私がこうなる事を
承知で義父と
再婚したのだ

母は義父の命令通り
私の股間に顔を
近づけ

ビク…

ぶるぶる

お母さんっ…？

そしてアソコに
舌を這わせ
愛撫した

ニュル

ニュル

母の舌使いは
とても激しく

ジュブ
ズブブ
ニュル

おやあ？お母さん
娘のマ〇コ舐めてるのに
ズブ濡れですよ♡

私は頭で
これはイケない事
だと思っていても

ふ…

何でっ…
お母さあん

身体の方は
正直に反応
してしまう
のだった

ゼクン
ゼクン
ニュル
ニュル

そして義父は
母の後方に
回り込み

ビク
ビク

その極太の肉棒を
思い切り挿入した

ズブ
ズブ

はっ…
うん♡

ゼクン

容赦ないピストンで
母の膣内をエグる義父

ガチュ

ガチュ

そのうち母は
大きく痙攣して

ぜん…

ぜん…

づぐ…あ♥

パン

パン

パン

イグぅ…♥

パン

パン

ぜん

絶頂した

パン

ぜん…

母がSEXで絶頂した姿を目の当たりにした私は

ビクッ…

ゼクッ…

ゼクッ…

…♥

…

自分のアソコが火照ってムズ痒くなる感覚を抑えられずにいた

…♥

もじ。

もじ。

もじ。

っ…このもどかしい感じ…

ん～？ミクちゃんどうしたのかな？

ハァ…

ハァ…

ダメ…こんなHな気持ちっ…

わ…私っ…

でももう我慢できないっ…♡

私のっ…

私は自分でびしょ濡れになっているアソコを拡げて

私のっ…オマ〇コにっ…

お父さんのおチ〇ポ下さいっ…

と義父に哀願した

ハ～…♥

ハ～…♥

ハ～…♥

ハ～…♥

ハ～…♥

この時の私には全ての事がどうでもよくなって

ただ気持ちよくなりたいそれしか考えられなかった

クックック本当に親孝行な娘で嬉しいよ♡

じゃ2人まとめて面倒みてあげる♡

そう言って義父は極太のバイブを取りだした

義父は母にはバイブ
私には肉棒を
同時に挿入し

ふぐぅ…♥
んぅ…♥
ビク…
ビクビク
ビク…
ビク…
ズニュウ…♥
ヂュウ…♥

両方激しいペースで
ピストンさせた

あっ♥あっ♥
んあ♥あ♥
パン
パン
パン
ズボ♥
ズボ…♥

実際義父のテクニックは凄まじく

パン♥ パン♥ パン♥

ズボ♥ ズボ♥

お♥あ♥

ビクビク

ビク…♥

イ♥く♥

ビク…♥

2人の弱い所を的確に責め続け

ブボッ♥

ズボッ♥

私達母娘は絶頂しまくるのだった

ビクビク…

ビク…♥

お♥あ♥あ♥

ビク…

私達親子3人同時に絶頂した

こうして
母を交えた
SEXは終わった

ハ〜♥

ビク…

ハ〜♥

ッ…♥

ッ…♥

トロォ…

ビクン

ハア…
何でこんな
事になっちゃった
んだろ…

…♥

…♥

この時の
私は
まだ知らなかった

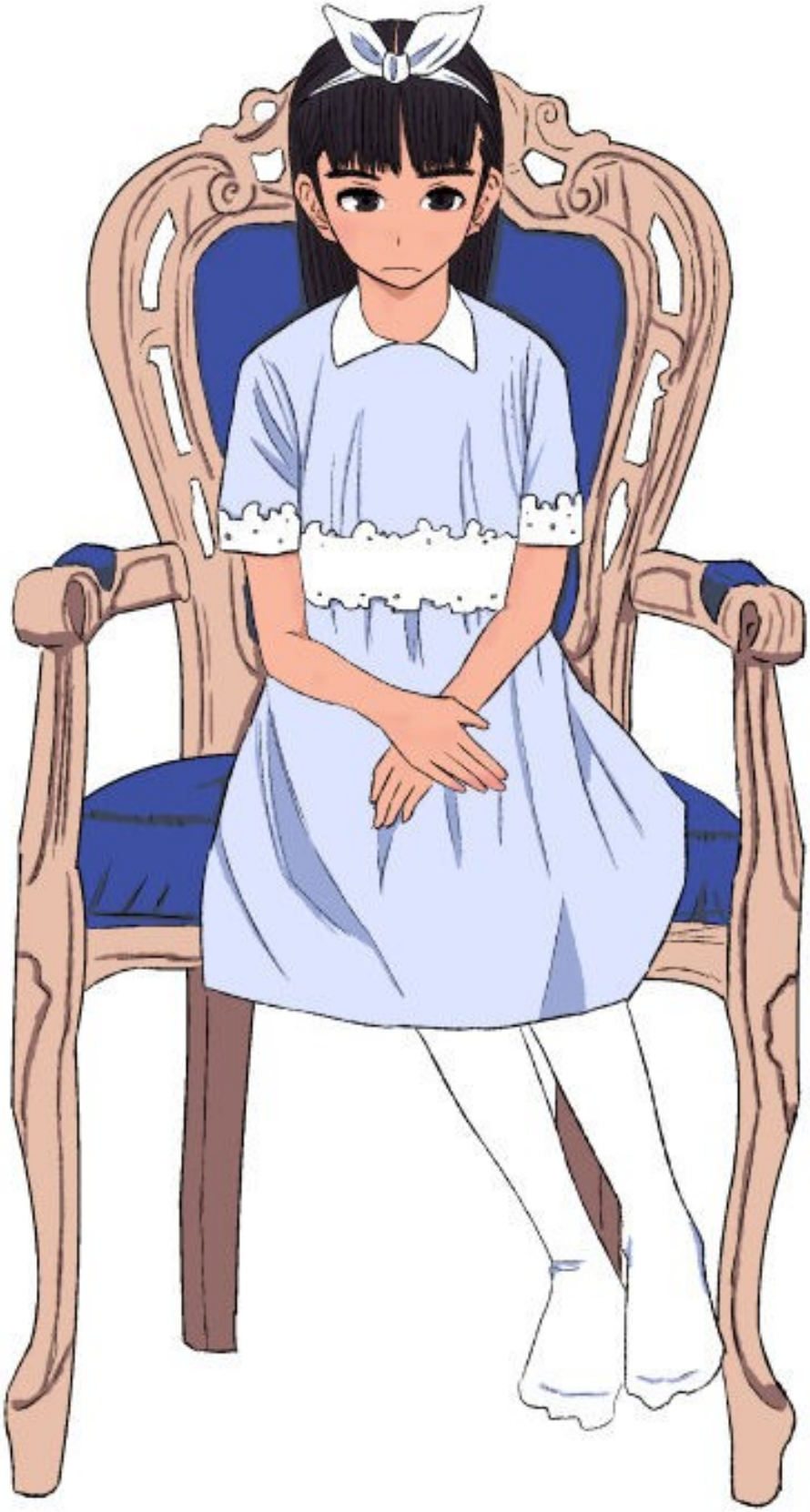
この後
数年間
ズルズルと
義父との
関係が続く
事を…

THE END

憧れだったあの娘がヤクザの穴奴隷にされていた件前編

俺の名前は
木下ユウスケ 25歳
現役バリバリのニートさ
日課であるネットで
ロリエロ動画を
漁っていると
俺はとんでもない
モノを見つけてしまった

10数年前に失踪した同級生――

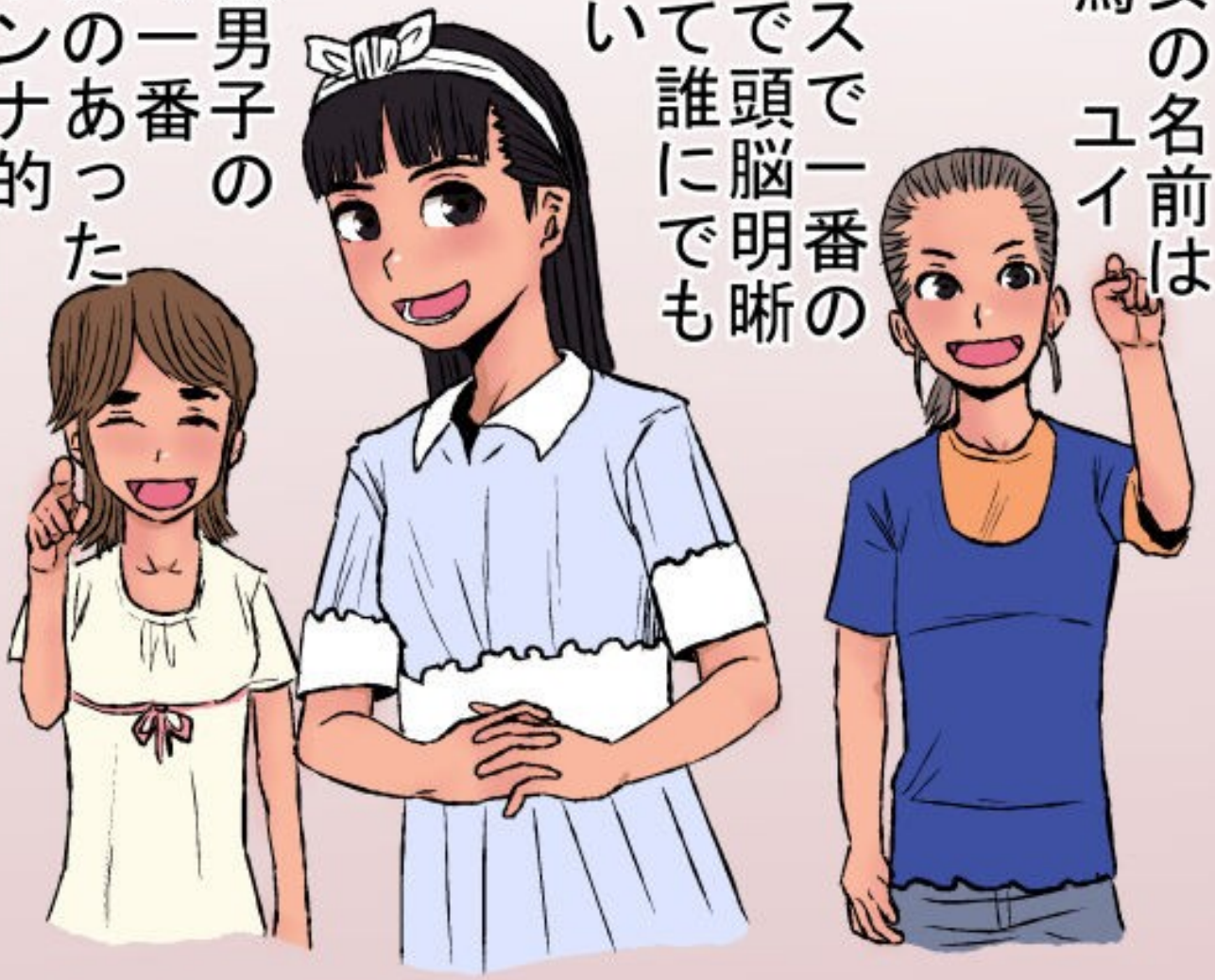


当時俺が憧れていたあのコが
昔のままの姿でエロ動画に出演していたんだ

彼女の名前は
白鳥　ユイ

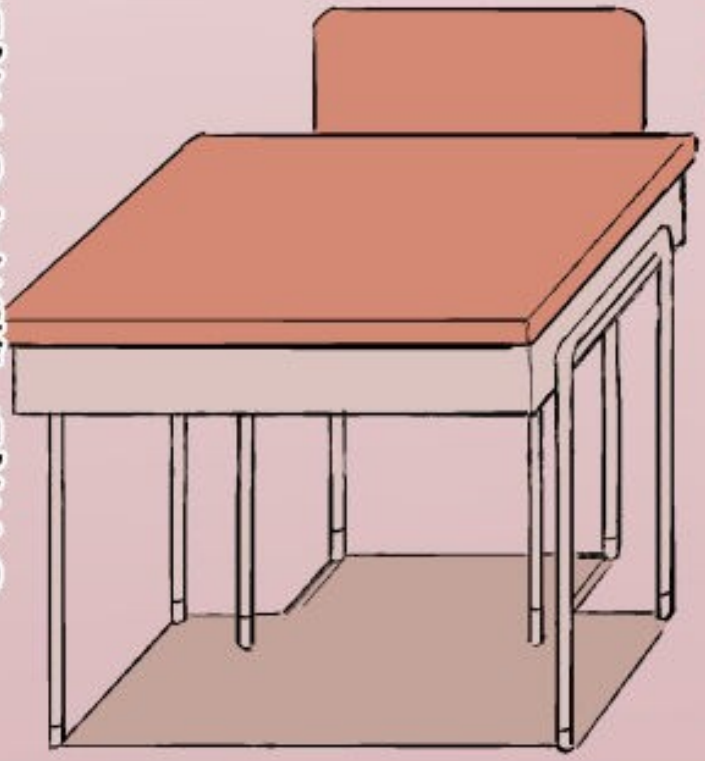
クラスで一番の
美人で頭脳明晰
そして誰にでも
優しい

当然男子の
中で一番
人気のあった
マドンナ的
存在だった娘だ

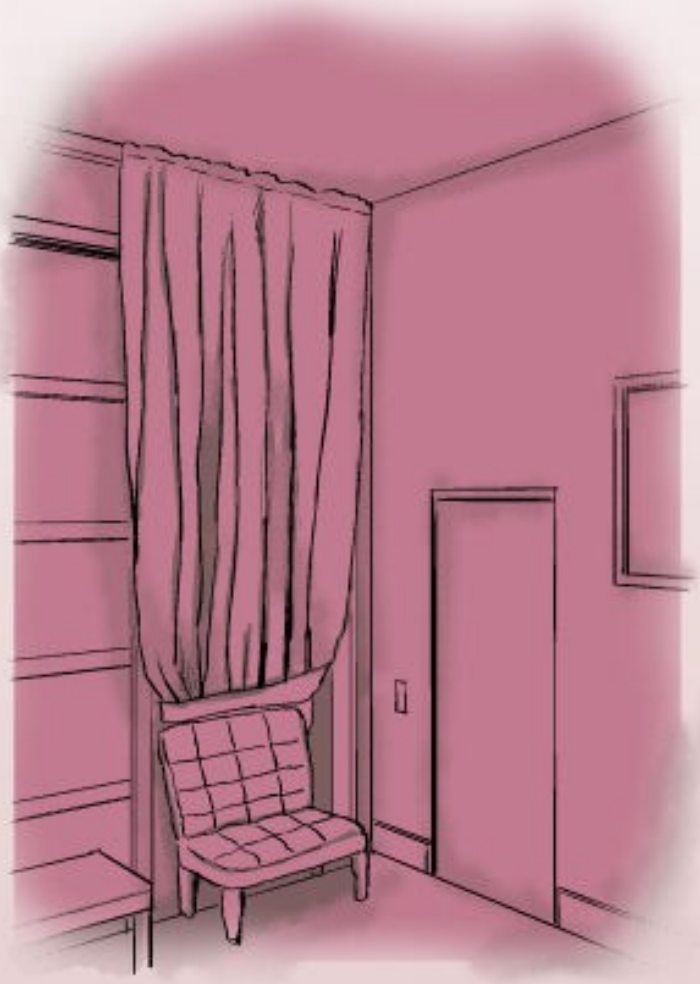


しかし
ある学年の夏休み明け
彼女の姿はパッタリと
消えた

誘拐説だの夜逃げ説だの
様々な噂が上がったが
真相も分からないまま
時間は過ぎ次第に誰も彼女の
事を口にしなくなっていった



しかし経緯は不明だが
実際に彼女は当時の姿で
この動画に写っていた



俺は安堵と絶望感が
入り混じった
複雑な気持ちで
この動画見続けた

やがて彼女は
ぎこちない表情で
自己紹介を
させられた

どうやら実家の事業が
失敗し借金返済のため
このビデオに出演
させられた様であった

自己紹介が終わると
チンピラ風の男が
出てきてズボンを
脱ぎ始める

「ヘッヘッヘッ…
じゃあユイちゃん
さっき教えた通りに
やるんだよ」

そして
彼女の前に
凶悪なソレが
姿を現した

ビクッ…

ボロン

「～～～ッッ…」
まだ1X歳だった
彼女の顔は更に強ばった

グイッ
「んっ・・んぶうッッ・・」
男は乱暴に彼女の
小さな口にソレを
ねじ込んだ
「オラあ・・・もっと舌を使えや」
○学生の少女の口に容赦なく
腰を振る
ズボ
「ん～～～っ・・んんんっ」
ドクン
ズボッ

「ふうっ…
なかなか具合が
良いロマ〇コ
だったぞ♥」

「ぶうぇっ…」
彼女は男の
汚らしい精液を
吐き出した

「おい次は
自分でスカートを
めくってみろ」

「……」

彼女は心底
恥ずかしそうに
自分でスカートを
たくし上げた

「おっほう♥
なかなか美味そうな
太ももじゃねーかよ♥」

男はそのゴツい手で
彼女の太ももを
遠慮なく掴む

グッ

ビクッ

「～～～～～ッッ！」

「おいおい これぐらいで
ビビるなよ もっと
気持ち良くしてやるから…よ」

グイ…

「やっ……！やっぱり止めて下さい！」

「あ～？」

「他の事は何でもします！やっぱりこれだけは…！」

ダダ…

「フッ…まあいいけどよ」

「その代わり妹のマイちゃんに出てもらうわ♥」

「ッ…！」

「…続けて下さい…」

必死の抵抗をしていた彼女も観念したのか次第に男のなすがままにされていった

「さーてユイちゃんの処女マ〇コとご対めーんw」

「ウホw ユイちゃん〇学生のくせに毛生えてるじゃーんw」

「〜〜〜ッッ」彼女は恥ずかしさのあまり泣き出してしまいそうであった

「ふむふむ・・」
男は下卑た眼で
彼女の女性器を
マジマジと
見ている

「ふっ・・・
ふうう〜っ・・」
（もうやだよおっ・・
こんな人にアソコを
見られるなんて・・・）

「うむ・・処女膜も
しっかりあるな」

クパァ。

「ひゃっ・・・」

「では味見と・・・♥」
男は女性器に
吸い付いた

チュ。

「イヤっ・・・・!?
やめてよおおおっ・・・・!」

卑猥な音をたて
男は彼女の
女性器を丹念に
舐めまわす

チュパ…

ブィ…

ズィィ…

「ん～～？
気持良いだろお？」

「ひっ…ひいいいいっ…」

ゾゾ…

（気持ち悪いのにっ…
この感覚はっ…！？）

ズズ…

チュ…

ブィ…

ズズ…

次に男は陰核を
舌で転がす様に
責めた

ゾクゾク
（やっ……！？
何？この感覚は
っ……？？）
んっ
ズルル
ブボッ
ズブブ

「お？ヒクついてきた」

「そろそろイクか？」

ヒク…

ヒク…

ジクジク…

「〜〜〜ッッ！」
（ダメっ…波が来るっ…）

ビク…

んあ

あ…

ゼクゼク

「おほっ…
ハデにイったな
このガキエロの
才能あるわ♥」

プシュッ…

ビクッ…
ビクッ…
（今の感覚は…？
頭がボ～っとして
何も考えられない…）
彼女は絶頂の余韻で
グッタリと仰向けに
なっている
「オラ
休んでる暇ねーぞ
次はもっと
気持ち良く
してやるよw」
男は彼女の服を
脱がせた

「じゃあそろそろ
本番いって
みよーか♥」

「え…？！
そ、それは…？！」

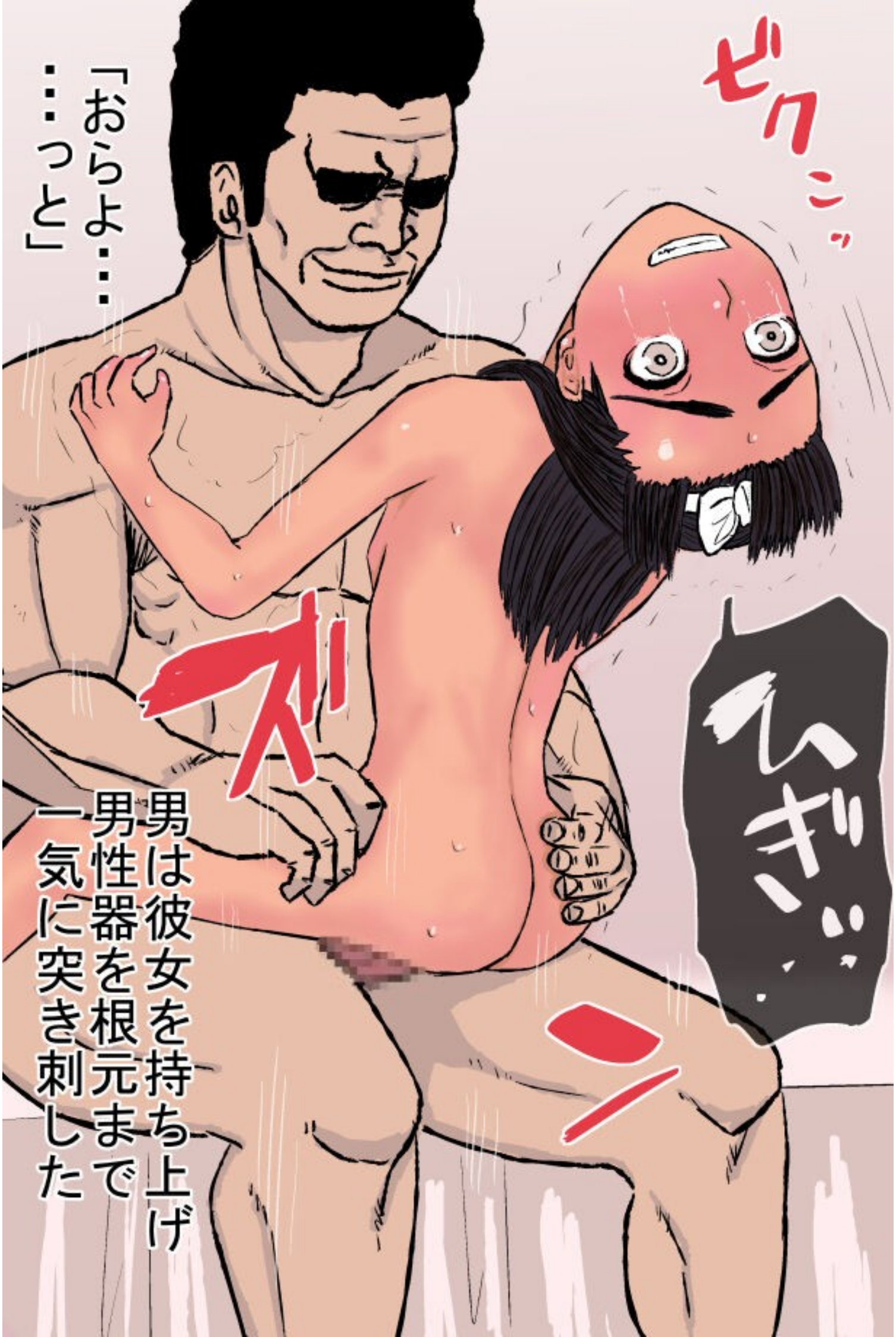
男は固く怒張した
男性器を彼女のアソコに
押し当てヌルヌルと動かした

「嫌っ…ダメです！それだけは
勘弁してください！他の事なら
何でもします！ソレだけは…！」

「うるせー…よ！」

男は彼女の声を
遮り腰に力を
入れ…

グゲ


ビクッ
「おらよ……
……っと」
ズ
ヘギッ
ン
男は彼女を持ち上げ
男性器を根元まで
一気に突き刺した

「ひぎっ……
イヤっ……痛いっ
お願いっっ
動かさないでっ……！」
「もうちっと
我慢しろや
すぐ良くなるからよw」
ズン
ズン
ズン
彼女は痛みで
顔面をグシャグシャに
している
男は彼女の哀願に
構わず腰を突き上げる

「ひっ……！？」

男は彼女を寝そべらせ体位を変え

破瓜の血も構わず乱暴に腰を振った

ズコッ

ズコッ

ズコ

「イヤあああっ！痛いよおっ！」

彼女がどんなに泣き喚こうが腰の動きは緩まる事は無かった

ズボッ

ズボッ

「ふっ……
ぐうううっ……！」

ビクビク

男のピストンは
激しさを増し
卑猥な音は一層
激しく響いた

ブリュ

チュポ

ブポポ

「流石〇学生マ〇コw
超締まるw
そろそろ限界
だわww」

バン

バン

バン

「よっしイクで～
子宮で受け止めろよ」

ゾクゾク…
ドクン♥
男は遠慮なく精子を彼女の子宮に注ぎ込んだ

「いや～
悪い悪いw
気持ち良すぎて
中に出しちゃったw」

「あ……
あ……」

ビクッ

ビクッ

（赤ちゃん
できたらどうしようっ…）

女になった彼女の
アソコからは

ドロォ

ドロっと男の
汚らしい精子が
溢れ出た

そしてそれを
見た俺は

泣きながら
オナニーをした

次のシーンでは
彼女は首輪に体操着という
出で立ちで登場し
いかがわしい中年に囲まれ
泣きそうな顔で俯いていた

そして彼女は
その中年達の
チ〇ポを

ズィ

ぎこちない
手つきで
両方シゴき始めた

ブボ

その小さな口で
亀頭を含み
カリを舌で
刺激し

ズブブ

尿道付近を
丹念に
舐め回した

ヂュプ

そして両方の
チ〇ポが固く
なった所で

彼女は下を
脱ぎ始めた

「わ…私の
〇学生マ〇コに
おじさまの
おチ〇ポを
入れて下さい…」

彼女は強ばった表情のまま
そう言って自分の
おマ〇コを曝け出した

クパァ

「くふっ…♥」

ズプププ

男達は待ちきれんばかりにそのそそり立ったチ〇ポを突き入れた

ゾクゾク…

「ふうっ…うううううっ…♥」

ズボ

ズボ

ズボ

ズボ

男の凶悪な極太チ〇ポが彼女の女性器を突くたびに愛液と切ない喘ぎ声が溢れ出る

ゾクゾク…

「もっと…
優しくっ…
こんなに激しく
されたらっ…♥」

「ん～～？
ユイちゃんその
割には下の口が
トロトロだよお？w」

そう言って
男はその凶悪なチ○ポで
激しくピストンする

パン
パン
パン

ズコ
ズコッ

（ダメっ…♥
私このままじゃ
馬鹿になっちゃうっ…♥）

「あ～～ユイちゃんのマ〇コ最高♥イクよ♥」

パン パン パン

「ふうううっ・・」男のピストンの激しさが最高潮に達した

その男また濃い精子を彼女の中に注ぎ込んだ

ドクン♥

んうぅぅぅ

ゾクゾク・・・

マポ…
「ふううっ…」
ビク…
ビク…
彼女は絶頂と同時に床にヘタり込んだ
（辛かったけどこれで約束のビデオ出演は終わった…）
（あとは家族4人で知らない街に住めば…）
「…お姉ちゃん？」
「え…？」

その声の主は
俺も知っている
人物だった

そう彼女の妹
白鳥　マイであった

「お…お姉ちゃん…」

「さあ…これから
お姉ちゃんと一緒に
楽しいお遊戯が始まるよw」

「え…？お…お姉ちゃん…？
何が始まるの…？」

「…マ…マイ…」

そうして彼女と
彼女の妹の地獄が
幕を開けるのであった

憧れだったあの娘がヤクザの穴奴隷にされていた件後編

妹と再会した後
私は彼女の目の前で犯された

いやあっ

ビクン…

オラw
妹の前で
イってみろやw

クリ…

クリ…♥

ビクン…♥

ニュッ♥

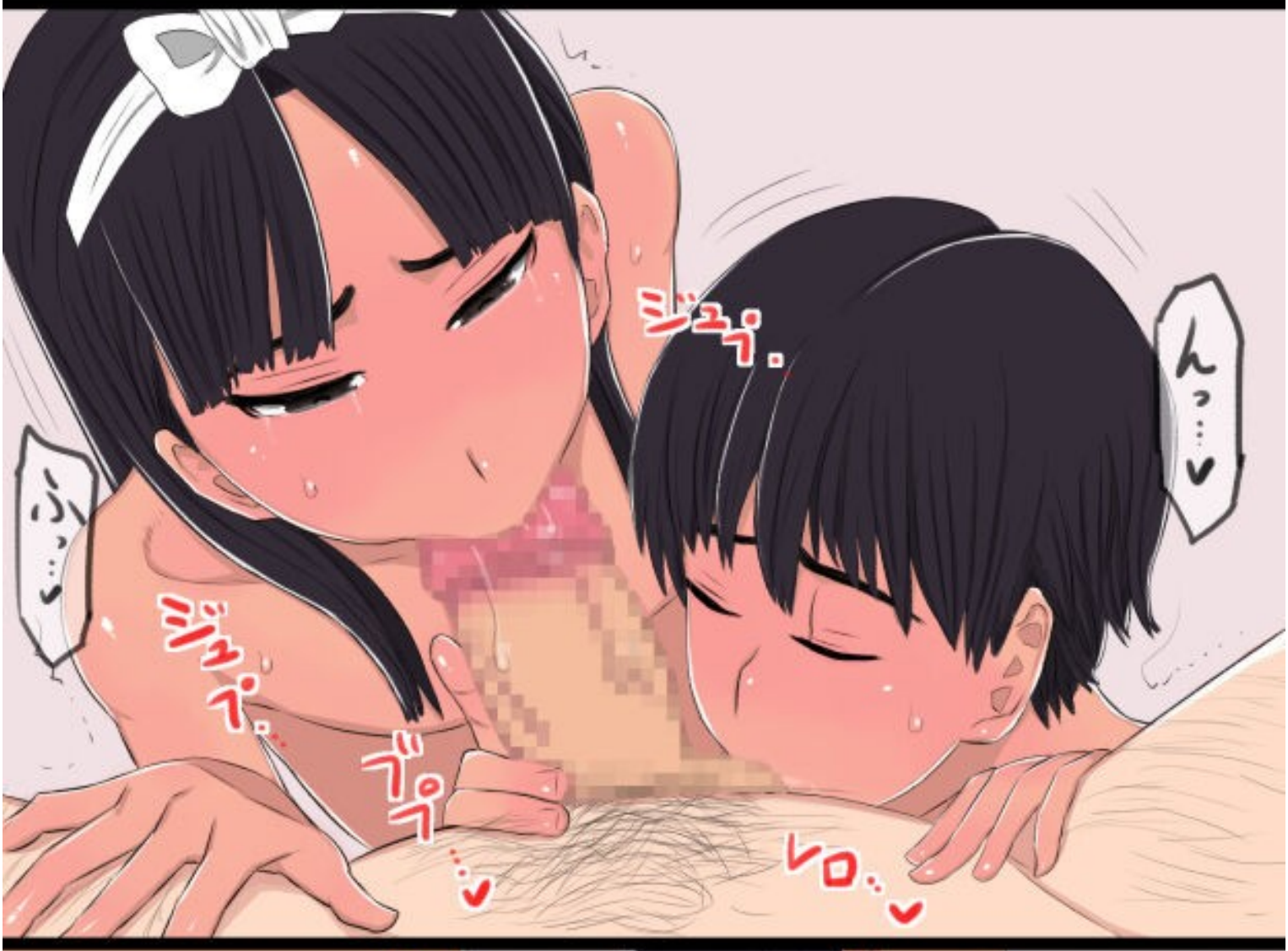
いやあじゃねーだろw
こんなにマ〇コ
濡らしてよぉww

ふ…♡
ふぐうううっ…♡

ニュッ♥

このメスガキがw
チ〇ポでイっちまえ♡
いやあ
あ
見ないで
ええ♡
ゾクゾク…
ズポッ
ジュポッ
ジュポッ
お・・お姉
ちゃ・・・ん？

それから半年後ー



パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
ああっ♥
ゾクゾクッ…
もうこの頃になると
○学生の私でも
セックスに
身体が慣れてしまい

ジュポッ
ズボッ
ゾクッ…
ズボッ
ブポッ
やあ
あ…♥
あっ♥
気持ちに関係なく
反応してしまう自分が
とても悲しく思えた

ビク…ビク…

あぁ…あぁ…♡

ズボッ

ブボボボ

ジュポッ

妹のマイも最初は痛くて泣いてばかりだったが半年後には身体がセックスに慣れてしまったのかそれとも心が壊れたのか

ゾクゾク…

フ～…

お子ポ…しゃぶっぽい♡

パン

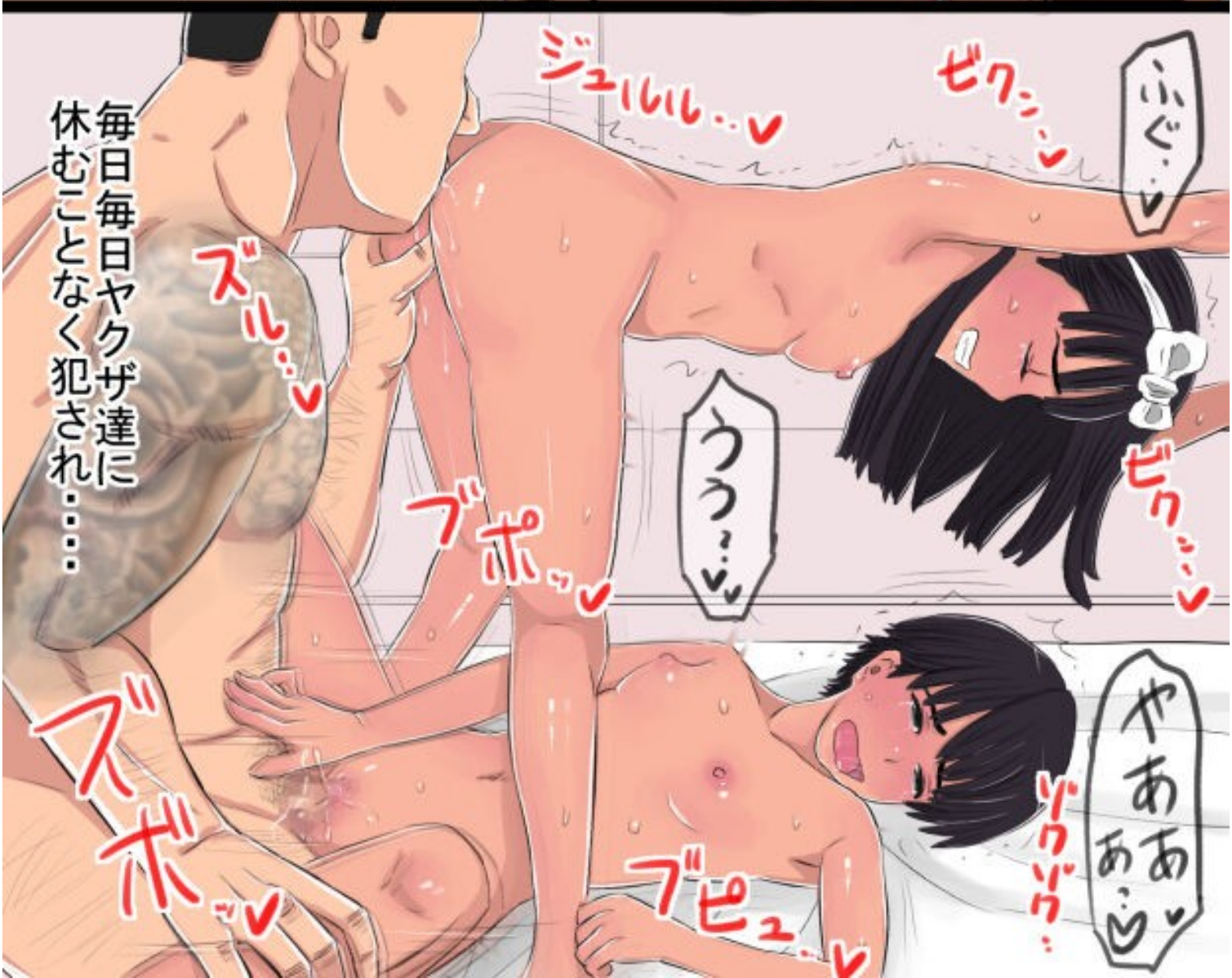
パン

パン

彼女は悦んでヤクザ達の相手をする様になってしまっていた

それから
私達姉妹は・・・

毎日毎日ヤクザ達に
休むことなく犯され・・・・



そして――

ビクビクッ

やああ♡あ♡

ドクン

ゼロンッ♡

おチ♡ポ♡こ♡

おチ♡ポ♡いいよぉ♡

ズブッ

そんな地獄のような
生活が数年続いた

私が20になる頃に
マイと離れ離れになり
山奥の旅館に引き取られた

そこでも私は男性客との
売春を強要された

その生活も10年続いた頃
20年近くも男とのセックスを
強要され身体はボロボロだったが
ようやく私は自由になった

その後ツテを頼り
廃人同様になっていた妹を
探して再会し
今は姉妹2人片田舎で
静かに暮らしている

完